

未来ガジェット研究所 メンバーファイル[3]

Future Gadget Laboratory Member File

キャラクターにスポットを当てた連載企画
第3回はフェイリスとるかかの2人!

本編の裏側や“if”のシナリオを多数収録した「線形拘束のフェノグラム」の魅力に迫っていく連載ページ。今号もプロデューサーの松原達也氏、ディレクターの梶岡俊彦氏、シナリオライターの林直孝氏のスタッフ3名と、各登場人物の声優陣の声を聞いていく。



Steins;Gate

シュタインズ・ゲート

線形拘束のフェノグラム

CREATOR
INTERVIEW



[ラブメンナンバー 007] フェイリス・ニャンニャン

[ラブメンナンバー 006] 漆原るか

キャラクターの誕生秘話や本編での立ち位置を探るとともに、最新作「線形拘束のフェノグラム」のストーリーの見どころにも迫っていく連載企画の第3回をお届け。今回はメイド喫茶の小悪魔系アルバイト・フェイリスと、男の娘ヒロイン・漆原るかという、個性的なラブメンたちの中でも、とくに印象的な2人をピックアップしよう。

PS3 AVG 4月25日発売予定

STEINS;GATE 線形拘束のフェノグラム

●5pb.
●¥7,140(税込)、数量限定版¥11,550(税込)

05 桃色幻都のシャ・ノワール

—フェイリス・ニャンニャン Super hero Chat-noir



アキバを守る2人の守護戦士が誕生!?

秋葉原でオカルトチックな出来事が起きているというウワサを耳にしたフェイリス。彼女は鈴羽とともにまゆりが作った衣装を身につけ、秋葉原の正義を守る守護戦士「シャ・ノワール」に扮して街の調査をすることに。しかし調査を進めていくうちに事態は意外な方向へ進んでいき……。 シナリオ：気賀沢昌志

▲ノリノリでポーズを決めるフェイリスと鈴羽。彼女たち2人にかかれば、事件はたちまち解決しちゃう!?



Actor's Voice

桃井はるこ氏 Halko Momoi

わたし個人としてのアイデンティティ形成でもあり、アーティストとしてのルーツである秋葉原に生き、そして愛しているフェイリスには特別な愛着があります。最新作は、ずっとファンでいてくださった方には今まで追いかけてきてよかったというカタルシスがあり、はじめて触れる方にも楽しんでいただけたらそうな、大発明といえるお話だと思います!

フェイリス・ニャンニャン FARIS NYAN-NYAN

秋葉原のメイド喫茶「メイクイーン+ニャン2」で1番人気を誇る女の子。じつは秋葉原一帯の地主の娘で、本名は「秋葉 留美穂」という名前である。

たとえ性別が変わっても
るかというキャラはブレない

—続いて、るかについても。本編が出た当時は、まだ“男の娘”は珍しかったですよ?

松原：志倉の考える初期案から設定は存在していたのですが、ギャグっぽくなってしまいう可能性があるので少し検討しましたね。

林：「秋葉原なら男の娘も許される!」ということで採用になりました(笑)。

—今回のシナリオでは、女性としてのるかかが主役になっているようですね。

林：はい。本編のるかルートで終盤からスタートする物語になります。内容は10本のシナリオの中で最も重いものになるかと思えます。

—女性になったことで、るかの性格などに変化はあるのでしょうか?

林：いえ。るかは男性であっても女性であっても変わらないですね。

梶岡：演じている小林さんには男性の時と女性の時で少し変化をつけていただいています、テキスト上は変わらないですね。ちなみに、るかの性格はオドオドとした感じが重要なんです。自信がほんの少しでも表に出てしまうと、るからしさが半減してしまうので、その部分で小林

さんにリテイクをお願いすることはありました。—なるほど。フェイリスのシナリオは鈴羽との絡みが多くなるということですが、るかのシナリオに関してはいかがでしょうか?

林：一番絡みが多いのは紅莉栖ですね。るかルートの終盤に、まゆりが死んでしまったことで岡部は絶望しますが、その時にかは何かを考えていたのか、というのが重要になってきます。—るかとしては岡部本人に相談するわけにもいれないので、紅莉栖に相談する……という流れになるのでしょうか?

林：そうですね。岡部はすでにまともに会話ができるような状況ではなくなっています。その時にかがどのようにタイムリープマシンを使うのかというと、紅莉栖がダルあたりに相談するしかないですね。

松原：紅莉栖とるかという組み合わせも、本編にはあまりなかったのでピックアップしました。梶岡：あと、このシナリオは、ものすごくモノローグが多いのも特徴ですね。

松原：そうですね。本当にモノローグが多いので、いつものウィンドウ形式ではなく、全画面に表示されるサウンドノベルのような形式になっています。重い話なので、るかの内面の悩みもそれだけ深いんですよ。

「収録されているシナリオの中で
最も重い内容になっているのがるかです」

4月12日~8月、大阪「アフィリア・コラボレーションズ!」にて「STEINS;GATE」とのコラボ開催が決定! 牧瀬紅莉栖や椎名まゆり、岡部倫太郎までがアフィリアの制服を着ることに!? また、4月20日の劇場公開を記念して「劇場版 STEINS;GATE 負荷領域のデジャヴ」とのタイアップも決定。詳細は公式サイト(<http://www.afilia.jp/kitchens/>)にて。

「フェイリスのストーリーは、本編で接点の少なかったキャラクター同士のかけあいが見どころです」

CREATOR
INTERVIEW

新たな仮面を付けて 大人と戦う少女の物語

—フェイリスは『シュタインズ・ゲート』の舞台となる秋葉原を象徴するようなキャラクターですが、作品における立ち位置を教えてください。

林: 実在する秋葉原のメイドをデフォルメして作ったのがフェイリスです。語尾の“ニャン”など、あからさまに狙ったキャラクターとして作りました。

—彼女はフェイリス・ニャンニャンという顔と、秋葉留美穂という顔の2つを持っていますが、どちらが先にできあがったのでしょうか？

林: フェイリスですね。「秋葉原が舞台ならメイドがいなければウソだろう！」と早い段階から設定が決まっていたんです。

松原: ちなみに、“フェイリス・ニャンニャン”という名前は志倉が名付けました。なので、なぜニャンニャンなのかは志倉しか知らないんです（笑）。

—フェイリスはブリッ子的な性格をしていますね。

林: わかりやすいメイド像にしたかったというのがありますし、フェイリスと留美穂という二面性を表現したかったというのがあります。

—厨二病という設定は？

林: 岡部の厨二病に付いていけるキャラクターが1人欲しかったんですね。いっしょに会話を楽しめるキャラクターは誰だろうと考えたときに、フェイリスの

性格が適任だったんですよ。

—演じている桃井さんの印象についてもお聞かせください。ご本人も秋葉原への造詣はかなり深いですが、

松原: 桃井さんには「私の分身だと思う」とおっしゃっていただいています。収録中もノリノリでしたし、本当にイメージどおりででした。

林: 本編の収録中に我々が唯一涙を流してしまったのがフェイリスのシーンなんです。ブースから出てきた桃井さんが目をウルウルさせている僕らを見て、ビックリされていたことを覚えています（笑）。

—続いて本作のストーリーについて。フェイリスの主観というのは想像できないのですが、いったいどういったものになるのでしょうか？

林: どちらかというとフェイリスよりは留美穂に寄った主観になります。そのため、あまりキャピキャピした感じにはならないですね（笑）。

松原: どちらの人格にするのかというのは当然我々も迷ったんですが、彼女にとってフェイリスという人格はあくまでも大人と戦うための仮面なので、留美穂のほうの人格でいこうという話になりました。

—では、彼女が頭で考えているモノローグと、実際に口にする言葉はだいぶ違うのでしょうか。

梶岡: 違いますね。フェイリスはもともと頭のいいキャラクターなのでビックリすると思います。

—シナリオの内容はかなりインパクトのあるものになっていますね。岡部のアルパカマンに続いて、こち

らも変身モノということですが、

林: 示し合わせたわけではなかったんですけどね。偶然にも、こちらのストーリーも変身モノに（笑）。フェイリスのシナリオは、フェイリスが主役のドラマCD「哀心迷宮のバベル」のシナリオを担当した気賀沢さんが手掛けてくださったので、彼女のことは我々が口を挟まずとも十分理解してくれているだろうと思ひ、お任せする形になりました。

—このシナリオは、フェイリスと鈴羽の2人がメインで展開するストーリーになるのでしょうか？

林: はい。完全に2人の物語ですね。「哀心迷宮のバベル」では、本編で交わりのなかった紅莉栖とのストーリーを描きましたが、じつはフェイリスは鈴羽ともほとんど絡んでいないんですよ。なので、このシナリオでは2人の関係を深く掘り下げてもらいました。

—シナリオのタイトルにもなっている「シャ・ノワール」が本作のキーになるのでしょうか？

林: そうですね。フェイリスがシャ・ノワールというもう1つの仮面を手に入れたことで、彼女の心境がどう変わっていくのかに注目してもらいたいです。

—フェイリスと鈴羽が主役の物語ということは、かなりにぎやかなシナリオになりそうですね。

林: そうですね。ただ、ほかのシナリオ同様に終盤はかなりシリアスな展開になります。

松原: 基本的には“大人と戦う女の子”というテーマをクローズアップしています。

—桃井さんのボイス収録は、本作でもやはりスムーズに進みましたか？

梶岡: 留美穂の独白については「私はこんなことを考えていたんだ！」と驚かされていました（笑）。

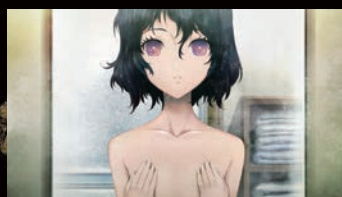
—その主語が「私」なのが桃井さんらしいですね。

まゆりの死に、るかがしてあげられることは——

まゆりの死を目の当たりにし、深い悲しみに暮れるるか。彼女の心に去来するのはまゆりとの楽しかった思い出と、岡部から教えられた真実だった。別の世界線の自分が送ったDメールにより、過去が改変され女性として生まれ変わったこと、そして、自分も含む数々の過去改変の影響により、

まゆりの死が回避できなくなってしまったこと。岡部は、これは自分の責任であり、るかが気を病む必要はないと言い切る。しかし、るかは、せめてまゆりの願っていたコスプレ姿を見せてあげたいと自らの意思でタイムリープを申し出るのであった……。

シナリオ：安本亨



▲かつて自分が男性だったことや、まゆりの死に関与していたことを知ったるか。はたして彼女が取る行動とは……。そして絶望の底に落ちた岡部は、立ち直ることができるのだろうか？

漆原るか

LUKA URUSHIBARA

まゆりのクラスメイト。礼儀正しく控えめな性格と華奢な体つきをしているが、れっきとした男性である。世界線で性別が変化することがあり、本作では女性として登場する。

迷宮錯綜のヘルマフロディトス

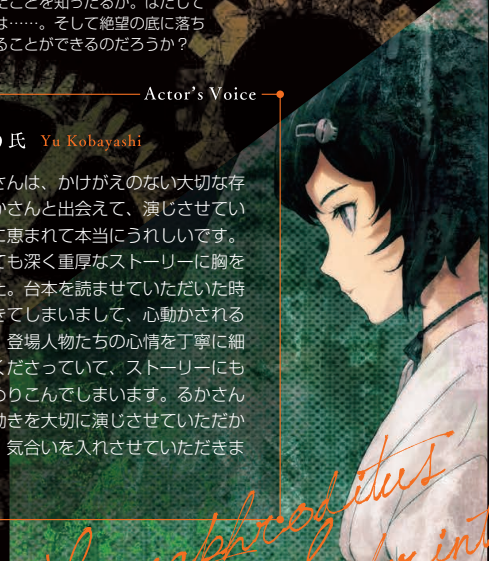
——漆原るか Hermaphroditus in Labyrinth



Actor's Voice

小林ゆう氏 Yu Kobayashi

漆原るかさんは、かけがえのない大切な存在です。るかさんと出会えて、演じさせてただく幸運に恵まれて本当にうれしいです。最新作はとても深く重厚なストーリーに胸を打たれました。台本を読ませていただいた時に涙が出てきてしまいまして、心動かされる内容でした。登場人物たちの心情を丁寧に細かく汲んでくださっていて、ストーリーにものすくでのめりこんでしまいます。るかさんの心の揺れ動きを大切に演じさせていただけなければと、気合いを入れさせていただきました。



Hermaphroditus
in Labyrinth